



MYタウン

赤坂 AKASAKA

青山 AOYAMA

地域情報誌

編集：港区赤坂・青山地区タウンミーティング 地域情報の発信・交流分科会
発行：港区赤坂地区総合支所協働推進課 赤坂青山地域情報誌 第15号 発行部数 22,000部

特集

学校と地域

赤坂警察署からのお知らせ

**振り込め詐欺再急増！
「だまされたふり作戦」にご協力を！**

こんな「ウソ電話」がかかってくる、この時こそが、犯人を捕まえる絶好のチャンスです。

《息子なりすまし型》
●第一段階(息子や孫を名乗って)「風邪を引いて喉が痛い。携帯電話を落として番号が変わった。」
●第二段階(その後...)「電車の網棚に社員旅行の代金が入ったカバンを忘れて、旅行費が払えない。お金を貸してほしい。旅行会社の人が取りに行く。」
「会社のお金を使い込んで、○○万円返さないで大変なことになる。会社の人(友人)が取りに行く。」

《警察・銀行なりすまし型》
●警察官や銀行協会、金融庁の職員を名乗って、「振り込め詐欺犯人を逮捕したら、あなたの口座が犯行に使われていた。通帳とカードを預かりに行きます。」

犯人からの「ウソ電話」だと気づいた場合は、あわてずに、そのまま、だまされたふりを続けてください。そして、電話を切った後、110番通報してください。すぐに警察官が駆けつけ、犯人をおびき出し、捕まえます。「だまされたふり作戦」にご協力をお願いします！

●お問い合わせ／赤坂警察署防犯係
電話：03-3475-0110(代表)

赤坂消防署からのお知らせ

住宅用火災警報器の設置が義務化されました。

火災予防条例により、平成22年4月1日から全ての住宅に住宅用火災警報器の設置が必要となりました。

●住宅用火災報知器の警報が鳴ったときは？
火災のとき 大声で周りに火災を知らせ、119番通報をしましょう。可能なら消火を行ってください。消火が難しい場合は、速やかに避難してください。
火災ではないとき 火災以外の湯気や煙などを感知して警報が鳴った時は、警報停止ボタンを押す、ひもがついているタイプのものはひもを引く、もしくは、室内の換気をするなど警報音は止まり、通常の状態に戻ります。

台所でもよく鳴る 煙や湯気が直接かからない場所に警報器の場所を変えるか、熱式の警報器に取り換えてください。

●正常に作動するか、月に1回点検を！
お手入れをしましょう 警報器にホコリが付くと火災を感知しにくくなります。汚れが目立ったら、乾いた布でふき取りましょう。特に、台所に取り付けた警報器は、油や煙などにより汚れがつくことがあります。布に水やせっけん水を浸し、十分絞ってから汚れをふき取ってください。
テストをしましょう ボタンを押したり、ひもがついているタイプのものは、ひもを引いて作動が確認できます。詳しくは製品の取扱説明書をご覧ください。
音が鳴らない 電池がきちんとセットされているか、電池切れでないか確認し、それでも鳴らない場合は、故障が考えられます。取扱説明書をご確認ください。

●お問い合わせ／赤坂消防署 電話：03-3478-0119

あの人の地域のこと

町会・自治会に加入しましょう！
●お問い合わせ／協働推進課 活動推進係 電話：03-5413-7272

赤坂・青山の町会・自治会のことを地域で活躍しているひとにききました

赤坂 赤坂七丁目町会
…歴史あるまち並を次代へ

赤坂七丁目町会では、外苑東通りの東側に位置し、「新版」・「三分坂」・「葉研坂」と3つの坂に囲まれた場所にあります。坂の多い港区の中でも特に急勾配な坂が多いのがこのエリアの特徴です。また、三分坂に沿って作られている報土寺の築地塙(練塙)は、塙が弓なりの珍しい形をしています。区内では残されているものが少なく、江戸の寺院の姿を今に伝える貴重な建造物となっています。また、報土寺には、江戸時代の大閘(当時の最高位)・雷電為右衛門のお墓があることも有名です。

現在、町会エリアは閑静な環境がゆえに夜道が暗いという防犯上の課題を有し、町会員の高齢化も進んでいます。このような状況の中、役員の方々が知恵を出し合い、歳末大トリクルの実施、隔年々旅行を実施するなど防犯への取組みや会員同士のコミュニケーションを深めるために趣向を凝らした活動を行っています。会員相互に力を合わせ、町会員の手で歴史あるこのまちを守り続けていきます。

昭和から平成へと移り変わる中で、社会経済だけでなく、まちも著しい変化を遂げました。戦前、戦中、戦後の状況の記憶は、鮮明に脳裏に残っています。現在、町会では、防犯、防災対策を最重要課題として、日頃から、町会員の意識向上と会員相互の連携強化に取り組んでいます。そのためには会員が親睦を図ることが必要と考え、町会内のバス旅行を実施し、毎回多くの参加者が親睦を深めています。また行政機関と連携して実施している夜間パトロールは、多くの方に安全・安心をPRする効果的な取組みだと感じています。

今後もさまざまな世代に町会活動に参加してもらうために工夫を重ね、町会員が相互に助け合える町会を目指していきたいと思ひます。

赤坂七丁目町会 飯田 納 会長 談

青山 南北青山二丁目町会
…町会の輪を広げるため

南北青山二丁目町会では、外苑西通りの東側、交差する青山通りの南北に位置しています。北青山・南青山は、昭和41年に住居表示が変更されるまで、赤坂青山北町、赤坂青山南町という名称で地域の方々にお馴染みでした。現在の町会名は、この頃の名称に由来しています。

南北青山二丁目町会では、地域の歴史や伝統を継承しながら、賑わいを創出するために、さまざまな行事を行っています。秋に行われる熊野神社の祭礼は、その代表的なものです。

また、夜間安全パトロールを実施し、防犯対策や放置自転車への取組みも行っていきます。さらに、さまざまな情報を町会の方々に伝えるため、掲示板を増やす取組みも行っていきます。笑顔と笑い声が絶えない町会作りには、会員の皆さんが奮闘しています。

南北青山二丁目町会では、役員が中心となって、町会内の賑わいと活気づりに努めています。昨年は、町会の宮御輿を新たに作製し、熊野神社の秋祭りでお披露目しました。秋祭りでは、町会員をはじめ多くの方々も参加し、地元の青山高校の生徒さんたちも運営に協力いただいたことは、大きな成果でした。一方、町会では、会員が減少傾向にあること、中心になって活動する若手が不足していることが、大きな課題になっています。これまで、町会内で解決方法を検討していましたが、昨年、近隣町会と協力して実施した「青山小学校避難所運営訓練」に多くの方が参加したことが、課題解決の効果的な手段であると感じました。今後も、家族で参加しやすい活動を進め、町会員の輪を広げていきたいと思ひます。

南北青山二丁目町会 鈴木 常夫 会長 談

観光地

古いものと新しいものが共存しているのが最大の魅力であり、6カ所の世界遺産があります。ダマスカスは(現在の首都であり、旧市街はかつて城壁で囲まれていて、8つの門で新市街とつながっています)、パルミラ(シルクロードの終点)、ボスラ(円形劇場)、アレッポ(古い壺)、クラック・デ・シュヴァリエとカール・エッサーラー・エル・ディン(古い城跡)です。ダマスカスは、世界の都市の中で現存かつ人が居住している最古の首都です。現在、UNESCOとの協力で、他にも17箇所が世界遺産へ登録申請中です。

食べ物

チェリー、メロン、リンゴ、アプリコット、オレンジ、レモン、カキ、スイカ、プラム、アーモンドと果物が豊富です。他には、ピスタチオ(世界第3位)、オリブオイル(同5位)などが多く収穫されています。

有名な料理は、ヤブラというぶどうの若葉で羊や牛の肉、米、香料などを包み煮込んだもので大変美味しいそうです。

宗教

大多数がイスラム教徒で、ほかにキリスト教徒が約13%、2~3百人のユダヤ教徒がいるそうです。

赤坂・青山にある大使館・観光局(シリア・アラブ共和国)

←Syrian Arab Republic

シリア・アラブ共和国

●面積 約18万5,180km²
●人口 約2,190万6,000人
●首都 ダマスカス
●言語 アラビア語

シリア・アラブ共和国大使館
〒107-0052
東京都港区赤坂6丁目19-45
http://syrian-embassy.jp/

赤坂6丁目の榎町公園のそばのシリア・アラブ大使館を訪問し、領事のフィラス・アル・ラシディ氏、大使館次席のラニア・アル・ヒジャリ氏、領事部の柳沢悠太氏にお目にかかりお話をうかがいました。

シリア・アラブ共和国はアジア西部にあり、アジア・アフリカ・ヨーロッパの三大陸の交差点に位置します。気候は地中海性気候に属しますが、四季があるという点で日本に似ています。季節によっては雨や雪も降ります。観光には春秋がお勧めです。西側は地中海に面し、魚、肉、果物、野菜、穀物が豊富に収穫できます。

ダマスカス旧市街

ボスラ(円形劇場)

スーク(市場)

ヤブラ

赤坂・青山地区総合支所が独自に取り組む地域事業について紹介します

第1回 未来に向け共存できるまち 赤坂・青山
～コミュニケーションを育むまち～

「地域事業」とは…
地域の課題を地域で解決し、地域の魅力をより高めるため、赤坂地区総合支所が、地区版基本計画を策定する上で、区民参画組織からの提言を踏まえ創出した6事業です。政策の方向に沿って、3つの分野(「かがやくまち」「にぎわうまち」「はぐくむまち」)に分類しています。今回はその中の『はぐくむまち』の中から2つを紹介します。

●はぐくむまち(福祉・保健・教育)
(1)明日の港区を支える子どもたちを育て
(2)生涯を通じた心ゆたかで健康な都心居住を支援する

①地域における子どもの総合的な施策の推進
赤坂・青山子ども中高生共育事業

子どもたちを地域ぐるみで見守り、育てる環境の整備を目指し、地域の企業、団体、住民と協働した子ども向けの講座・イベントなどを実施します。

子どもだがりや講座
子ども記者ニュース

【平成22年度実施内容】
●赤坂・青山共育情報局の運営
●講座の実施/ファッション&マナー講座(5-6月)/子どもだがりや講座(8月)/共育国際プログラム「第1弾・ドイツ」(9月)、「第2弾・フィンランド」(11月)、子どもファッションショー講座(10月)
●ウォークラリーの実施(1/23赤坂編、2/20青山編)
●子ども記者による地域情報誌の記事の作成(地域情報誌第12・14号掲載)

②特性を生かした文化芸術の振興
赤坂・青山歴史、文化、芸術のまちづくり事業

「赤坂メディアアート展」
赤坂地域の伝統と文化を継承しつつ、まちの変化に対応した「赤坂メディアアート展」を地域が一体となった取組みとして実施します。

似顔絵プレゼント
アートワークショップ参加者と作品

【平成22年度実施内容】
テーマ：「顔・顔・顔」
見慣れた自分の「顔」、身近な家族・友人・恋人の「顔」。笑ったり、怒ったり、「顔」は私たちのコミュニケーションの要。赤坂を舞台に、改めて「顔」と向き合い、その魅力を再発見するイベントとして開催しました。

●11/20・21・23 アートワークショップ(赤坂中学校及び榎町公園にて似顔絵を描く体験) & 似顔絵プレゼント(榎町公園来園者のモデル体験)
●12/6 ゴッホ展ギャラリートツアー(国立新美術館にて)
●12/15-16 顔を巡るトークショー(星野知子氏、秀島史香氏他)

次号は、『はぐくむまち』第2弾文化交流事業と冊子発行を紹介(予定)します。

出典：国立国会図書館ホームページ

青山霊園眺望
～人と歴史～

第7回
北里柴三郎(きたさとしばさぶろう)
(1852年～1931年)
1イ19号2側

日本が誇る世界的な医学者(細菌学者)北里柴三郎は、熊本県阿蘇郡の総庄屋の長男として生まれました。若き日、政治家を志していた時期もありましたが、東京帝国大学医学部卒業後、内務省衛生局に入局し、明治18年(1885)ドイツベルリン大学に留学しました。ローベルト・コッホ(ツベルクリン発見者)に師事し、破傷風菌純粋培養・ジフテリア血清療法などの貴重な業績を残し、コッホ4高弟の一人となりました。

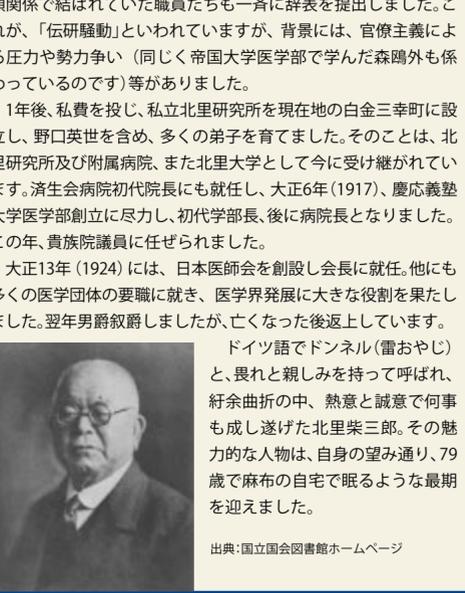
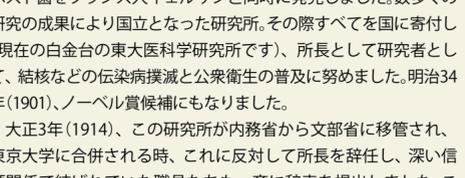
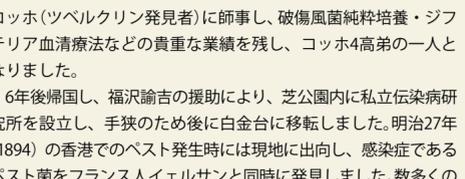
6年後帰国し、福沢諭吉の援助により、芝公園内に私立伝染病研究所を設立し、手狭のため後に白金台に移転しました。明治27年(1894)の香港でのペスト発生時には現地に出向し、感染症であるペスト菌をフランス人イェルサンと同時に発見しました。数多くの研究成果により国立となった研究所。その際すべてを国に寄付し(現在の白金台の東大医学部研究所所)、所長として研究者として、結核などの伝染病撲滅と公衆衛生の普及に努めました。明治34年(1901)、ノーベル賞候補にもなりました。

大正3年(1914)、この研究所が内務省から文部省に移管され、東京大学に合併される時、これに反対して所長を辞任し、深い信頼関係で結ばれていた職員たちも一斉に辞表を提出しました。これが、「伝研騒動」といわれていますが、背景には、官僚主義による圧力や勢力争い(同じく帝国大学医学部で学んだ森鷗外も係わっているのです)等がありました。

1年後、私費を投じ、私立北里研究所を現地の白金三幸町に設立し、野口英世を含め、多くの弟子を育てました。そのことが、北里研究所及び附属病院、また北里大学として今に受け継がれています。済生会病院初代院長にも就任し、大正6年(1917)、慶応義塾大学医学部創立に尽力し、初代学部長、後に病院長となりました。この年、貴族院議員に任ぜられました。

大正13年(1924)には、日本医師会を創設し会長に就任。他にも多くの医学団体の要職に就き、医学界発展に大きな役割を果たしました。翌年男爵叙爵しましたが、亡くなった後返上しています。

ドイツ語でドンネル(雷おやじ)と、畏れと親しみを持って呼ばれ、紆余曲折の中、熱意と誠意で何事も成し遂げた北里柴三郎。その魅力的な人物は、自身の望み通り、79歳で麻布の自宅で眠るような最期を迎えました。



赤坂地区総合支所のお知らせ

赤坂・青山地区
タウンミーティングメンバー募集中!

赤坂地区総合支所では、区民協働による赤坂・青山のまちづくりを目指して、一緒に考え、行動する区民参画組織「赤坂・青山地区タウンミーティング」を設置しています。平成23年度は下記4分科会のメンバーを募集しています。

①赤坂地区版計画推進分科会
②地域情報の発信・交流分科会
③まちの歴史伝承分科会
④いきがいづくり推進分科会

区民協働による赤坂・青山のまちづくり

●対象者 赤坂・青山地区に在住、在勤、在学者、または、赤坂青山地区のために活動したい人
●募集する分科会
①赤坂地区版計画推進分科会：地区版計画の進捗状況確認や地域課題の検討、地区版計画見直しに向けた検討を行います。
②地域情報の発信・交流分科会：赤坂青山の情報を自ら取材・編集し、地域情報誌「MYタウン赤坂・青山」を発行します。身近で魅力ある情報の発信を目指します。
③まちの歴史伝承分科会：華やかな花柳界や娯楽施設、軍施設などがあり、時代の先端といえるまちであった昭和初期の赤坂・青山。当時住んでいた人などから聞き取り、まちや人の歴史を次世代へ伝承するため、自ら取材・編集し冊子を作成します。
④いきがいづくり推進分科会：赤坂・青山地区の高齢化率は港区平均を大きく上回っており、高齢者への支援が強く望まれています。地域の高齢者などが今後も生き生きと暮らせるよう、赤坂・青山ならではの新たなふれあい・いきがいづくりを検討します。
※各分科会は原則、平日の夜間、月1、2回程度を予定しています。

●活動期間 平成23年4月～平成24年3月
●人数 ①は30名程度、②③④は15名程度
●お申し込み 住所、氏名、電話番号(連絡先)、在住在勤在学等の別、希望分科会を書いて、郵送、持参またはファックスで3月31日(木)までにお申し込みください。

〒107-8516 赤坂地区総合支所協働推進課地区政策係
電話：03-5413-7013 FAX:03-5413-2019

「乃木坂地域 滞留者・帰宅困難者対策訓練」
が開催されました

赤坂地区総合支所の地域事業「企業等と連携した防災行動計画の作成」の一環として、1月20日に、聖パウロ女子修道会ホールにて「乃木坂地域 滞留者・帰宅困難者対策訓練」が行われました。

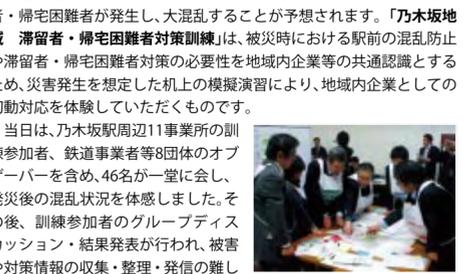
赤坂・青山地区は、大企業・大型商業施設・宿泊施設等が集中し、膨大な昼間人口を有しています。大規模地震が発生した場合、多数の滞留者・帰宅困難者が発生し、大混乱することが予想されます。「乃木坂地域 滞留者・帰宅困難者対策訓練」は、被災時における駅前の混乱防止や滞留者・帰宅困難者対策の必要性を地域内企業等の共通認識とするため、災害発生を想定した机上の模擬演習により、地域内企業としての初動対応を体験していただくものです。

当日は、乃木坂駅周辺11事業所の訓練参加者、鉄道事業者等8団体のオブザーバーを含め、46名が一堂に会し、発生後の混乱状況を体験しました。その後、訓練参加者のグループディスカッション、結果発表が行われ、被害や対策情報の収集・整理・発信の難しさ等、今後の取組みに向けた課題が語られました。

今回の訓練は、今年度、赤坂地区総合支所が乃木坂駅周辺地域をモデル地域に設定して、駅周辺事業所や、鉄道事業者、警察署、消防署に参画いただいた「乃木坂ワーキンググループ」における検討を経て開催したものです。

今後も、同地域での取組みを継続するとともに、赤坂・青山の他地域に広げていく予定です。たくさんの方のご参画をお待ちしております。

●お問い合わせ／赤坂地区総合支所まちづくり推進担当
電話：03-5413-7038



編集後記

赤坂青山地域に住む編集員自らが地域の魅力を発信する地域情報誌「MYタウン赤坂青山」。これまでの取材や編集活動の活動を振り返ってひとこと。

●安藤/足指び2年程編集員をつとめてきました。もう少し踏み込んだ記事が出来ないかなと思ひますが、個人企業、商店を名前を出して紹介できないのが辛いところです。 ●石井/初めて編集集会に参加させて頂きました。赤坂・青山地区の知られざる一面を垣間見ることが出来、大変勉強になりました。時間的な制約もありご迷惑をおかけしましたが、少しでも地域情報の発信のお手伝いが出来たのではと思っております。 ●稲垣/となりの金物や、永や、団子や、たばこや、床や、とうふや、そして寿司やも、店じまい。大きなビル、そばの鍵ちゃん、どこか遠くへ行っちゃった。 ●内野/私の愛する街、赤坂青山。この街の知られざる魅力を皆様にお伝えすべく、これからも尽力していきたいと思ひています。 ●園部/地域情報誌の使命とは何か?といつも自問自答し乍ら最善の誌面作りを心掛け、頑張っております。 ●馬場/今年度は、人物・企業・作品の取材が多く、その為の下調べや参考資料漁りに時間を使い、特に神経を使った1年だった気がします。いい勉強になりました。未知との遭遇もできました。何より「脳」の活性化になったと思ひます。 ●村上/2年間編集委員をつとめ、和、緑、通り、メディアの街、人、まちめぐりや連載の「青山霊園眺望」に関わり、赤坂青山の様々な表情に触れることができました。これは知るほど魅力的なまちです。 ●百瀬/編集集会に参加してメンバーの方々との色々なお話を聞いたり、実際に大使館に取材に行ったりして、さらに「赤坂・青山」の魅力を知りました!幅広い世代に読んでいただきたい情報誌です。 ●山田/編集メンバーの方から赤坂・青山地区についてのさまざまな話や、赤坂・青山地区の企業・大使館等への取材を通して、普段の業務では知ることのなかった「赤坂・青山」を知ることができました。 ●吉田/3人目の子どもも男の子で、父親不在では到底育てられないと、職住接近で赤坂に住むこと30年余。便利さと通勤時間の無い分、PTAやボランティア等、多様な人間関係の中で自分も育てられました。赤坂の町に感謝!

編集後記

赤坂青山地域に住む編集員自らが地域の魅力を発信する地域情報誌「MYタウン赤坂青山」。これまでの取材や編集活動の活動を振り返ってひとこと。

●安藤/足指び2年程編集員をつとめてきました。もう少し踏み込んだ記事が出来ないかなと思ひますが、個人企業、商店を名前を出して紹介できないのが辛いところです。 ●石井/初めて編集集会に参加させて頂きました。赤坂・青山地区の知られざる一面を垣間見ることが出来、大変勉強になりました。時間的な制約もありご迷惑をおかけしましたが、少しでも地域情報の発信のお手伝いが出来たのではと思っております。 ●稲垣/となりの金物や、永や、団子や、たばこや、床や、とうふや、そして寿司やも、店じまい。大きなビル、そばの鍵ちゃん、どこか遠くへ行っちゃった。 ●内野/私の愛する街、赤坂青山。この街の知られざる魅力を皆様にお伝えすべく、これからも尽力していきたいと思ひています。 ●園部/地域情報誌の使命とは何か?といつも自問自答し乍ら最善の誌面作りを心掛け、頑張っております。 ●馬場/今年度は、人物・企業・作品の取材が多く、その為の下調べや参考資料漁りに時間を使い、特に神経を使った1年だった気がします。いい勉強になりました。未知との遭遇もできました。何より「脳」の活性化になったと思ひます。 ●村上/2年間編集委員をつとめ、和、緑、通り、メディアの街、人、まちめぐりや連載の「青山霊園眺望」に関わり、赤坂青山の様々な表情に触れることができました。これは知るほど魅力的なまちです。 ●百瀬/編集集会に参加してメンバーの方々との色々なお話を聞いたり、実際に大使館に取材に行ったりして、さらに「赤坂・青山」の魅力を知りました!幅広い世代に読んでいただきたい情報誌です。 ●山田/編集メンバーの方から赤坂・青山地区についてのさまざまな話や、赤坂・青山地区の企業・大使館等への取材を通して、普段の業務では知ることのなかった「赤坂・青山」を知ることができました。 ●吉田/3人目の子どもも男の子で、父親不在では到底育てられないと、職住接近で赤坂に住むこと30年余。便利さと通勤時間の無い分、PTAやボランティア等、多様な人間関係の中で自分も育てられました。赤坂の町に感謝!

赤坂地区総合支所のお知らせ

赤坂・青山地区
タウンミーティングメンバー募集中!

赤坂地区総合支所では、区民協働による赤坂・青山のまちづくりを目指して、一緒に考え、行動する区民参画組織「赤坂・青山地区タウンミーティング」を設置しています。平成23年度は下記4分科会のメンバーを募集しています。

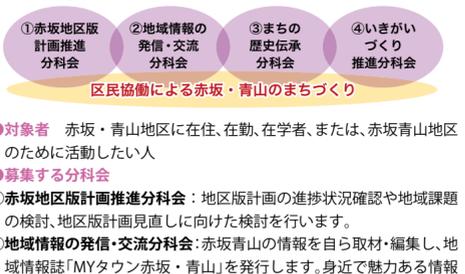
①赤坂地区版計画推進分科会
②地域情報の発信・交流分科会
③まちの歴史伝承分科会
④いきがいづくり推進分科会

区民協働による赤坂・青山のまちづくり

●対象者 赤坂・青山地区に在住、在勤、在学者、または、赤坂青山地区のために活動したい人
●募集する分科会
①赤坂地区版計画推進分科会：地区版計画の進捗状況確認や地域課題の検討、地区版計画見直しに向けた検討を行います。
②地域情報の発信・交流分科会：赤坂青山の情報を自ら取材・編集し、地域情報誌「MYタウン赤坂・青山」を発行します。身近で魅力ある情報の発信を目指します。
③まちの歴史伝承分科会：華やかな花柳界や娯楽施設、軍施設などがあり、時代の先端といえるまちであった昭和初期の赤坂・青山。当時住んでいた人などから聞き取り、まちや人の歴史を次世代へ伝承するため、自ら取材・編集し冊子を作成します。
④いきがいづくり推進分科会：赤坂・青山地区の高齢化率は港区平均を大きく上回っており、高齢者への支援が強く望まれています。地域の高齢者などが今後も生き生きと暮らせるよう、赤坂・青山ならではの新たなふれあい・いきがいづくりを検討します。
※各分科会は原則、平日の夜間、月1、2回程度を予定しています。

●活動期間 平成23年4月～平成24年3月
●人数 ①は30名程度、②③④は15名程度
●お申し込み 住所、氏名、電話番号(連絡先)、在住在勤在学等の別、希望分科会を書いて、郵送、持参またはファックスで3月31日(木)までにお申し込みください。

〒107-8516 赤坂地区総合支所協働推進課地区政策係
電話：03-5413-7013 FAX:03-5413-2019



「MYタウン赤坂青山」は、地域の人が自ら取材し、編集する地域情報誌です。赤坂青山の身近で魅力ある情報の発信を目指します。

この情報誌についてのご意見等ございましたら、ご一報ください。
赤坂地区総合支所協働推進課地区政策係
電話：03-5413-7013 FAX:03-5413-2019

再生紙を使用しています

地域情報誌「MYタウン赤坂・青山」
(地域情報の発信・交流分科会)

「あの日あの頃(発行準備号)」
(まちの歴史伝承分科会)

平成23年度
『港区民交通傷害保険の加入申し込みはお早めに!』
加入申込期限/各総合支所での申込み 平成23年3月31日(木)
金融機関での申込み 平成23年3月25日(金)

●お問い合わせ／赤坂地区総合支所協働推進課地区政策係
電話：03-5413-7013 FAX:03-5413-2019

学校と地域

赤坂青山地域には、明治6年開校の旧赤坂小学校(現赤坂小学校は平成5年開校)をはじめとして、明治8年開校の青山小学校、明治39年開校の青南小学校、昭和22年開校の赤坂中学校・青山中学校という歴史のある学校があり、それぞれが特長のある活動を行っています。そもそも教育の場である学校は、教え、学ぶ場であるとともに、避難所に指定されるなど地域と密着した共生の「要」としての期待も担っている一面があります。

そこで今回は、「地域」と「学校」というテーマにスポットをあて、各編集委員が区立の学校へ取材を実施。それぞれの学校が行っている現在の取り組みなどについてご紹介したいと思います。



赤坂小学校

赤坂の誇りであり、3校の学校名を墨書した勝海舟。校長はその勝海舟遺愛の大銀杏の葉を中心に、統合した3校をシンボライズした3つの輪で囲んでできたものです。また、大木傳夫作曲、山田耕作作曲の榎町小の校歌を残し、3校の歴史と伝統が引き継がれています。

※樹齢270年 サン・サン赤坂に現存

青山小学校

徳川家康公家臣であった老中青山公の下屋敷があったことから「青山」の地名となり、そこから学校名が名付けられました。校章の青の文字が「青」であることから地域に「青」としての期待も担っている一面があります。

青南小学校

明治39年、年齢児童の増加に伴い、当時の屋敷街に小学校を新設。一帯は名木や桜が繁り、明治神宮に伸びる参道を通じる御幸通り。校章の青の文字が「青」であることから地域に「青」としての期待も担っている一面があります。

赤坂中学校

歴史と伝統の街、赤坂の地名にちなんで命名されました。校章も「赤」の字をデザインしたおしゃれなものです。赤坂・六本木という繁華街に位置しながらも、校庭には、ゆりの木、イチヨウ、ヒマラヤヤシ、ケヤキ、クスノキなど自然が盛り残り、春にはツグイスの鳴き声が心をこませます。

青山中学校

青山家の屋敷が広く占める地域から「青山」と呼ばれるようになり、この地名から校名が名付けられました。校章「菊の青葉」には、菊のような優雅さ、気品、やさしさのある生徒に育つようにという願いが込められ、青葉の形に、生徒たちの伸びゆく姿が表現されています。

港区立赤坂小学校

〒107-0052 港区赤坂8-13-29
TEL 03-3404-8602 FAX 03-3404-8601
URL <http://www2.rosenet.ne.jp/~akasaka-e/>

100年余の歴史を持つ3つの小学校が統合して誕生。ファミリー活動により共生と協調の意識を育む。

『やさしさと思いやりのある子ども』『よく遊びよく学ぶ子』『心と体をきたえる子ども』という教育目標のもと、ファミリー活動(学年縦割りによる給食、集会)、幼稚園・保育園・中学生との交流、外国の方々との交流、国際化授業、威臨太鼓の習得、奉仕活動(地域清掃)など、PTA・地域と連携を図り、共に子どもを育てています。特に青少年地区委員会とは、四季折々の催事で、都会の真ん中で経験できない田植え、キャンプや田舎の町村との交流、芋煮会、スキー・スケート教室等、さまざまな経験ができ、人とのかわりや共生・協調の意識を育み、コミュニケーション能力の育成にもつながる活動をしています。

今は新入学の準備にランドセルと学習机と防犯グッズが3点セットといわれる状況です。開かれた学校だった時代から、気軽に学校へという時代ではなくなっているのです。かごの鳥にならないよう、地区委員会、町会、行政とPTAの協力のもと、様々な人の係わりをもち、地域の子どものために育っているのは心強いかぎりです。

最近では選挙の投票の時から小学校に行くことがなかったのが、取材のため久しぶりに職員室にお邪魔し、卒業アルバム、檜通史、開校記念誌等に目を通して、30代になった息子3人の小学校時代を思い出しました。長男は旧校舎、次男は仮校舎(旧赤坂支所公会堂)、三男は新校舎での別々の卒業式。1990年代はパブルをはさんで、もっとも活気があった時代。赤坂の街も激しく変化しました。明治6年開校の旧赤坂小学校に始まり、100年余の歴史を持つ榎町小学校、氷川小学校の3校が統合され、当時の最新技術の理想的なモデル学校として新校舎が建てられ、見学が絶えなかったと聞いています。

それ以外にも、昭和の時代は遠くなりにけりと痛感しました。今は公立でも親が学校を選択できる時代になりました。自分で学校を選ぶ自己責任の厳しさに気づいているのでしょうか。これは老婆心かもしれませんが、新しい校舎の新生赤坂小学校も18年を経て、新しい時代の人材を輩出するのも近いでしょう。楽しみにして見守りたいものです。

沿革 平成5年4月1日、旧赤坂小、榎町小、氷川小が統合され、現在の赤坂小学校として開校し、校旗、校歌、校章制定。10月30日開校式典が開かれ、開校記念日となる。平成20年に開校15周年を迎えた。旧赤坂小は、明治6年に第三中学校区第三番小学校舎(せんりょう)学校として、榎町小は明治22年に赤坂小学校中之町分校として、氷川小は明治41年に氷川尋常小学校として開校したという歴史をもつ。

港区立青山小学校

〒107-0062 港区南青山2-21-2
TEL 03-3403-5588 FAX 03-3403-5589
URL <http://www2.rosenet.ne.jp/~aoyama-ea/>

歴史と伝統が息づく青山の地に135年。情報・環境・スポーツなど多岐に渡る活動を実践!

開校135周年を誇る伝統校でありながら、単に伝統に安住するのではなく常に時代の先を見据え、「時代の変化に対応した教育」が実践され、継承されています。「児童一人一人を生かす学習指導法」や「文部省道徳教育推進校」への取り組みは、近年受験予備校化による弊害が叫ばれます。「真の教育とは何か」についての解を出そうとしているのではないのでしょうか。「ホタルの小川」も「ピオトープ」も大都会のど真ん中で育つ児童たちにとっては本当に貴重な体験となるでしょう。

その一方で、ICT(情報通信技術)の活用ということで、いち早くパソコンを授業に取り入れ、平成21年にはマイクロソフト社の「NEXTプロジェクト」(ICTを活用した授業実践・公開授業)を実施しています。また、平成22年には「東京都スポーツ推進校」に指定され、早朝や放課後の5時から7時、時にはそれ以降まで、近隣の他校生や上級生(中学校)も加わり、陸上競技やバレーボール、サッカー等々で汗を流し、同時にチームワークの大切さを学ばせています。ここにも児童たちを大声で一生懸命指導する「熱血先生」の姿がありました。活動が行われる「プラスバンド」や心身障害学級「あすなる」など様々な活動にも取り組んでいます。

地域とのかかわり方でみまますと、他校の児童や中学生も混じっての青山SC(スポーツクラブ)はやはり特筆すべきで、他にも地域の方々による楽器の寄贈から始まったプラスバンド部の活躍(「青山まつり」への参加など)、地元保育園との交流など児童を中心とした地域とのかかわりのほか、災害発生時には緊急避難所としての役割が果たせるよう、日頃から区役所や防災協議会と連絡を密にするとともに、必要備品をストックし、万が一に備えています。

沿革 明治39年9月、南青山4丁目4番地、教院院境内に校舎が建設され、同年11月に第3中学校区第17番小学青山学校として開校式を挙げる。明治24年3月に、東京市赤坂区青山尋常高等小学校と改称。昭和50年に開校100周年、平成17年に開校130周年、平成22年に開校135周年を迎えた。

港区立青南小学校

〒107-0062 港区南青山4-21-15
TEL 03-3404-8608 FAX 03-3404-8600
URL <http://www2.rosenet.ne.jp/~seinan-e/>

創立104周年。著名人を多く輩出した歴史と伝統のある人気小学校。

明治39年8月2日に現在地に創立。初代校長は「大久保欣平」。現在の興水校長は21代にあたります。平成18年11月18日に「青南小学校開校百周年記念式典」が行われ、今年は104年目を迎えています。

閑静な住宅街にあり、正門の高麗にはサザンカが美しく等間隔に植樹され、根元には小さな草花が丁寧に植えられています。「なでしこ」「ピオラ」「シクラメン」「とうがらし」、それに杉の木のミニチュアを思わせる「ゴールド・クレスト」。クレストには蝶ネクタイが着けられていました。小人の国のような趣と手入れが見事です。

部内でも有数の名門校として知られるこの伝統校は、教育熱心な保護者の方たちの心のこもった「教育環境づくり」にも表れていました。敷地に入ると、右手に校歌と教育目標の石碑、左手に同校に学んだ俳人・中村草田男作・自筆の「降る雪や 明治は遠く なりにけり」の碑がありました。女性校長の興水先生は、気さくに迎えてくださいました。

校内の案内もしていただきました。「ロビーライブラリ」、保護者による「三図書館」です。近くにはランドピアノが置いてありました。女子児童が「ライブラリ」の脇の椅子で、帰宅直前の寸時を利用して一人熱心に本を読んでいます。作品コーナーも見ていただきました。さらに、当校に学んだ人たちの話も聞かれます。実業家、政界、作家、芸術家、学者、俳優などそうそうたる方々が卒業されており、キラ星の如き感がありました。

校長先生は最後にこう強調されました。「本校では、本物に触れる教育を大切にしています。世の中のICT化が進み、現実と仮想世界の区切りが見えにくくなる中、小学校で本物を見極める体験を意図的に仕組むことが必要です。その積み重ねが、サイエンスグランプリの学校賞などにつながっていると思います。」

沿革 明治39年8月2日創立、同年11月に開校式を迎える。明治40年4月に青南尋常高等小、翌41年4月に青南尋常小学校へ改称。昭和11年4月に新校舎が落成する。昭和16年4月に青南国民学校へ改称。昭和22年4月に現在の港区立青南小学校となる。平成18年11月に開校百周年記念式典が行われた。

港区立赤坂中学校

〒107-0052 港区赤坂9-2-3
TEL 03-3402-9306 FAX 03-3402-9302
URL <http://www2.rosenet.ne.jp/~akasaka-j/>

日常的な地域交流が活発。小規模校ならではの特色ある活動を実施!

「ここなら子どもが何にでも全力で頑張れる。人数が少ないので自分たちでやるしかないから。」あるお母さんが、お子さんの入学の動機を語ってくださいます。

ここ赤坂中学校(赤中)は東京ミッドタウンの隣にあります。昭和29年の移転により現在の毛利藩跡地に建てられました。歴史と伝統の街、赤坂の地名にちなんで命名され、校章も「赤」の文字をデザインしています。再開発前には、教室마다毎朝、防衛庁のラジオ体操が見えたそうです。創立は昭和22年、榎町小学校内に開校し、その後、昭和25年5月9日に天皇皇后両陛下のご視察を受け、以来その日を開校記念日としています。

全校生徒が100人ほどという小規模校ですが、それ故の入学希望者も多く、また、中之町幼稚園、赤坂小学校と12年のつながりの中で子育てをする方も大変多いのが特色です。お父さんの出身校だからという家族や、兄弟4人全員が12年ずつ地元の幼小中学校にお世話になる場合もあるようですが、それによって転入生も馴染みやすい風通しの場があります。

「知・徳・体の調和のとれた生徒を育成する」という教育目標のもとに質の高い授業が行われ、日本各地から授業見学の申し込みがあります。また、地域との連携は枚挙にいとまがなく、中でも、12月の赤坂中学校と港区青少年対策赤坂地区委員会が共催して行う「いも煮会」は格別です。伝統的な地域の防災訓練として、日本赤十字奉仕団、赤坂地区の総合支所、消防署、警察署や赤坂小学校、中之町幼稚園の先生方、PTA...と、地域ぐるみでの訓練とその準備、赤中の全校生徒が地域の方々から指導を受けて作る「いも煮」は味と手際によさ共に大変好評だったそうです。

中之町幼稚園での保育実習では、園児に「〇〇くん!」と呼ばれている中学生もいるほど、ふだんから地域で交流があるといえます。そんな中学生も高校入学後や成人式では地域の方に声をかけたり、行事へのお手伝いに参加したり、地域の頼もしい存在となっています。

取材を終えると廊下からショパンのピアノの音色が響いていました。「音楽の先生ですか?」「いやあ...あれは〇〇かな。いや、△△のタッチだな」と副校長先生。1階では、野球部の練習中の少年がピアノの置かれた昇降口へと案内されました。リュックを背負ったままの女子生徒による「黒鍵のエチュード」の文字通り練習でした。赤中らしい、一人ひとりの顔が見えるそんなひとコマでした。

沿革 昭和22年4月19日、新学制施行により、区立榎町小学校(現赤坂小)敷地内都立赤坂女子商業高校内に創立。同年、日本で最初に青少年赤十字団体に加盟し、特第1号の登録を受けたことにより、昭和25年5月9日に天皇皇后両陛下ご視察を受け、以来、5月9日を開校記念日に制定した。昭和29年に現在地に移転。平成19年には開校60周年記念式典を挙行了。

港区立青山中学校

〒107-0060 港区北青山1-1-9
TEL 03-3404-7522 FAX 03-3404-7523
URL <http://www2.rosenet.ne.jp/~aoyama-j/>

脈々と受け継がれる「青中魂」。生徒たちの自主性、人間性を重視。

『青中魂』と大きく書かれた標語のある正面玄関で渡邊常次校長に笑顔のお出迎えをいただきました。校長室に向かう途中ですれ違った先生方にも気持ちよい挨拶をいただきながら、校長室に入るとずらりと並んだ歴代校長の写真に圧倒されました。

昭和22年、現在の都立日比谷高校の一角に創立された青山中学校の歴史は長い。『「青中魂」はすべての生徒の精神的支柱になっています。当時の生徒会により掲げられた生徒目標の、『真剣な学習』『節度ある行動』は、青山中のよき伝統としてこれからも大切にしていきたいですね。』

昔、PTAが発行していた広報誌「いしずえ」を見せられました。当時、現役朝日新聞記者森本哲郎氏の指導をいただいたという話があります。現在TVなどで活躍している森本アナウンサーの兄上です。

「私は、生徒達の人間性を大切に教育を考えています。私立中学校は卒業生によって支えられていますね。公立中学校は地域に愛されることで支えられています。」

具体的には、「吹奏楽部は青山の各種の地域行事に参加させていただいています(青山まつりなど)。近年、東京都吹奏楽部コンクールで銀賞を受賞しました。また、『お話し会』の活動では、小学校にクイズ、落語、童話などの読み聞かせのボランティアをしています。これらの活動は、文部科学大臣賞をいただきました。青山・赤坂の地域にある中学校の利点を生かして区内の3つの美術館と連携することで、文化の吸収の一環として活用させていただいています。」「重ねて申し上げますが、人間性をベースにした『生徒第一主義』の教育を大切にしていきたいと思っています。そういう観点からすると、少人数であることは面おもく見ることができ、個性を伸ばすという意味で、プラスであると考えています。特別支援学級も見ていただくとお分かりと思いますが、現在10名の生徒がおり、教師が丁寧な指導に当たっています。生徒は生き生きと勉強しています。」

帰り際に見学させていただき入っていくと、元気の声の挨拶が印象的でした。「挨拶は、基本であり、生徒達に教員がよく教えています。」「これも青山中の新しい伝統です。」玄関まで丁寧なお見送りをいただいた。

今年には青山中にゆかりの深い日比谷高校へ3名の生徒が進学するとの噂、人間味に溢れた渡邊校長の指導方針の基、学業は自然に伴ってくるようです。

沿革 昭和22年4月29日、港区立新屋中学校として東京都立第一中学校(現日比谷高等学校)に併設し開校。昭和23年4月に港区立青山中学校と改称する。昭和60年5月に新校舎落成記念式典を開催した。

学校だより

こんな取り組みも
行っています!

各校趣向を凝らした「学校だより」
赤坂小学校、青山小学校、青南小学校、赤坂中学校、青山中学校は、それぞれが趣向を凝らし、保護者や地域に向けて「学校だより」を発行しています。学校の教育に対する考え方をはじめ、学校が取り組んでいる活動や行事予定などを知らせることができます。

避難所としての役割を担う学校
赤坂小学校、青山小学校、青南小学校、赤坂中学校、青山中学校は、いずれも、大規模な災害時に赤坂青山地域の「避難所」となります。「避難所」は、災害による家屋の倒壊などで被害を受けた人の一時的な生活場所です。水、食糧、情報などが供給され、寝泊りもできるため、地域にとってはとても大切な場所であるといえます。赤坂青山地域には、「避難場所」として他に、旧赤坂小学校、赤坂区民センター、サン・サン赤坂(旧氷川小学校)があります(地図参照)。

学校開放について
赤坂小学校、青山小学校、青南小学校、赤坂中学校、青山中学校では、授業に支障のない範囲で、体育館や校庭、教室の一部などが一般に開放されており、スポーツや文化活動に利用することができます。利用にあたっては、学校ごとに一定の条件があるようです。詳しくは各学校へ問い合わせてください。

コラム「学校と地域」

「子弟を育む」親の思いは、昔も今も大差なくあります。教育史を紐解くとよく分かります。幕藩体制の崩壊と、明治という国家のあり方が変革する節目で、教育の在り方も組織的に、制度的に見直されることになりました。明治4年7月18日、文部省が設立され、同年11月25日の布達を以って、翌明治5年3月、すべての府県庁を通じて、開学願書(届出制)が実施されたのです。教育が国家のシステムとして動き出した瞬間とも言えるでしょう。それまでは、私財を投じて塾を作った人や、無給で教育の実務に携わった人たちが、あくまで特定の個人、篤志家、地域(郷)に限られて来ました。長く「胎動のような時代を経て、『教育』はようやく国家の制度として組み込まれることになったのです。」

しかし、この新しく生まれた国の教育制度も、時代の流れの中で、社会の変革や戦争、自然の大きな災害、価値観の変遷、人口の増減等々の諸事情に翻弄されて、修正と手直しが続けられながら、営々と受け継がれ存在し続けてきました。そしてこれからは、さらに一層「何よりも大切な礎」として、学校教育はあり続けなければならないと思います。

※年度末で大変ご多忙のところ、今回の取材にご協力いただいた各学校の先生方に、この場を借りてお礼申し上げます。

学校紹介